

くすやま美紀(樟山みき)活動報告

2017, 11, 30 NO. 212

連絡先 荻窪5-15-19-704 電話・FAX 5932-6170

区議会控室 3312-2111(内)2319



2020～2024年度の5年間で新たに6園を民営化 区立保育園の大規模民営化方針示される

7割近くを民営化

前定例会が行われた9月、杉並区は「保育のあり方検討部会報告」に基づく公立保育園の大規模な民営化方針を示しました。

44の区立保育園のうち、中核園（7園域に2園ずつ、今後指定）と障害児指定園15園（現在8園、今後7園追加）を除く全ての区立保育園が民営化対象園となります。中核園と障害児指定園は同一園となる可能性もあり、今後、区立保育園の多くを民営化する方針です。計画では2020年度～24年度の5年間で6園が民営化され、それ以降の民営化園は2022年度までに決定されます。前定例会では、2020年度に井荻・中瀬の両園が民営化されることと示されました。

区立保育園の配置図



「保育の質」を保つためにも 区立保育園の役割は重要

区は、民営化を進める理由について、保育関連経費が増大しているため、保育士の削減（243名）で人件費を抑制し、財政効果を上げるとしています。昨今、民間企業が運営する新設認可保育所が増えるなか、「保育の質」に大きな格差が生じています。

「保育の質」で重要なのは、経験を積んだ保育士をはじめバランスのとれた職員の確保です。保育士が経験を重ね専門性を高めていくためには、働き続けることができる賃金や労働環境が必要であり、それを担保できるのが公立保育園です。保育所運営に企業参加が進むなか、区立保育園は区内の「保育の質」の基準となっており、その役割はますます重要となっております。さらに、今、各自治体では認可保育園の増設で保育士不足が深刻化しています。区立保育園の民営化は、保育士不足に拍車をかけることにもなりかねません。

当面、区立保育園として運営される見込みの園

現在の障がい児指定園 8園

久我山東、荻窪南、井草、阿佐谷北、善福寺、和田、浜田山、今川

新たな障がい児指定園（候補）7園

高円寺東、阿佐谷南、永福南、永福北、高井戸東、西荻北、上荻

保育士確保が困難な現状を踏まえ、区立保育園の増設（北区：区立保育園4園を新設）や、常勤の公立保育士の増員（板橋区：80名の募集）に取り組んでいる自治体もあるなかで、杉並区が保育士削減を財政効果として民営化を進めることは、公的責任を投げ捨てるもので許されません。

党区議団は、区立保育園の民営化方針の撤回を求めています。

お困りごと、ご相談は、上記連絡先まで、お気軽にお電話ください

高円寺地域の小中一貫校 開校延期問題

住民に責任をなすりつける区の姿勢は重大問題

杉並区教育委員会は、2019年4月に開校予定だった高円寺地域の小中一貫校について、開校を一年延期すると発表しました。延期の理由について「工事妨害があり、工期内に完了できない」としていますが、事実には反するものです。

抗議行動を「工事妨害」にすりかえ 住民に責任転嫁

区教委が「工事妨害」と言っているのは、高さ30mの巨大校舎によって住環境を脅かされる近隣住民が、連日高円寺中の門前などで、小中一貫校計画の見直しを求め「巨大校舎反対」というプラカードを掲げているだけの抗議行動のことです。非暴力のアクションであり、「妨害」などではありません。しかし、工事業者は、この住民による抗議行動を、「工事妨害」として工事遅延の言いわけにし、区も工事業者と一体になって住民に責任を押しつけたのです。

そもそも建築確認の大幅遅れが原因

工事が遅れている一番の原因は、都の建築安全条例に基づく建築確認が4か月も遅れたことです。その他、今秋の長雨、杭打ちの難航も、工事が遅れた原因だと専門家からは指摘されています。さらに、オリンピック・パラリンピック関連の建設時期に重なったため、工事の検査等が遅れたことも理由の一つだと、区自身が区議会に説明しています。こうした理由については、区民に説明しないばかりか、住民による「工事妨害」など無かったにもかかわらず、工事遅延を住民のせいにする区の姿勢は重大問題です。

高円寺地域の小中一貫校建設は中止し、住民とともに、より良い学校づくりを行うべきです。

吉良よし子参議院議員

つれない 共産党を語る



26日（日）、吉良よし子参議院議員を迎え、党杉並地区委員会主催の「つれない日本共産党を語るつどい」が開かれました。吉良さんから、総選挙での野党共闘や選挙後の国会情勢、9条改憲をめぐる安倍政権の動き、共産党がめざす社会について等々語られました。「迫力ある訴えでよかった」「平和な世の中にしたい」などの感想が寄せられました。

前代未聞！ 委員会審議中

区長が激昂 机を叩き答弁

11月24日（金）の区議会保健福祉委員会の審議中、田中区長の不適切な行為に、委員会が騒然とする一幕がありました。

自民党女性委員が、保育行政について苦言を呈する質問を行った際、田中区長が突然激昂し、机を叩き、答弁に立ったのです。議員の質問を威圧する行為であり、極めて不適切な態度です。女性議員に対する、まるでパワーハラスメントのような態度に、他会派の複数の議員から「こんなことは経験したことがない」「おかしい」などと、問題を指摘する声が上がりました。

質疑のなかで、日本共産党の山田耕平委員は、区長の態度や議員の質問を威圧する行為を厳しく批判しました。区長は謝罪しましたが、議会を蔑ろにする区長の暴走ぶりが、いよいよ深刻になっています。

今回のような事態が繰り返されないよう、今後も徹底追及します。